

フィリピン株.com

TOPIC NEWS

《ビッグチル、2020 年前半に上場へ》

出典 Inquirer Net

リリース日：2019 年 10 月 16 日

フィリピンの農業・食品事業を手掛ける事業体としては最大手のアグリナーチャー (ANI) は、ジューススタンドを展開する子会社のビッグ・チルについて、2020 年前半の新規株式公開 (IPO) の準備を行っていることを、フィリピン証券取引所 (PSE) の開示情報で明らかにした。

ビッグ・チルの親会社であるアグリナーチャーの CEO アントニオ・チュー氏によると、IPO に関する目論見書は今年の 12 月までに提出予定だが、実際の IPO は 2020 年の前半になる見込み。IPO は 2017 年に同社が予定していた 6 億ペソ (約 12 億円) よりも規模が大きくなり、10 億ペソ (約 20 億円) の資金調達を予定している。

同社の株は、IPO の後には、30~35%の一般公開株となる見込み。

アントニオ氏

「ビッグ・チルは、長年の計画を経て、現在 IPO に向けて最終局面に入っています。同社は、製品の規模を拡大し、新たな成長要因と共に、ベジタリアン向けの食品小売業の多様化と、ブランド飲料のキャッシュレス自動販売機の展開も視野に入れていきます。」

ビッグ・チルは IPO に先がけて、新たな事業として、ベジタリアン向けに肉の代用品となる植物性食品の販売を予定しており、台湾の工場での生産が計画されているという。

また、飲料の自動販売機の展開については、水、ビッグ・チルのフルーツジュース、タリーズ・コーヒーの販売、将来的にはサンドウィッチなどの食品も導入する予定だ。

「当初は台湾のビジネス経済の中心エリアで 50 個の自動販売機を設置を検討しており、同時にキャッシュレス化するという。現金を支払う代わりに、ウィーチャットペイ、ペイマヤ、G キャッシュなどからの支払いを可能にする」と、アントニオ・チュー氏は語った。

自動販売機を利用した飲料販売は、ショッピングモールに店舗を構えて販売するよりも、賃貸にかかる各種費用の支払いがないことから、コストを削減できるのがメリットです。アントニオ氏は「かかるのは電気代、インターネット代だけ」と述べています。

ビッグ・チルは、フィリピンの主要な都市において、「ビッグ・チル」のブランドでフレッシュジュースを販売し、タリーズコーヒーのフランチャイズも展開しています。

親会社のアグリナーチャーはフィリピンで収穫された新鮮な果物、野菜の輸出、また国内で

卸売事業を行っており、2011年にビッグ・チルを吸収合併しました。今後の展開に注目したい。



【企業情報】

Big Chill Inc.

111-112 Cedar Mansion Phase 2

Condominium 7 Saint Jose Maria Escriva

Drive, Brgy. San Antonio

Ortigas Center, Pasig City

997-2083, Fax: 511-1287

<http://bigchill.com.ph/>